

アフリカンキッズクラブ関西と一緒に創る未来

Building the future together with African Kids Club Kansai

那須ダグバ 潤子

Nasu Dagba Junko

私は現在、京都の私立大学で看護学科の教員として働いています。ナイジェリア国籍をもつ男性と結婚し、私たちの間には今年で4歳になる女の子がいます。私たち夫婦は東京で出会い、出産を機に私の生まれ故郷である京都に移り住みました。子どものいない人生かと思い始めたところにアフリカンルーツをもつ子どもに恵まれたわけですから、私の家族はみな驚き、喜びました。そして今、アフリカンキッズクラブ関西の立ち上げに加わることができ、さらに明るい未来を想像してうれしく思っています。

私の人生に影響を与えたもの

小学生だった私が初めて親にねだって買ってもらった本は、1989年に出版された『ネルソン・マンデラ』でした。新聞の書評を読み、「どうして世の中にはこんなおかしなことがあるのか」と母に尋ねていたことを今も思い出します。このマンデラ氏の物語を読み、南アフリカの歴史、黒人やアメリカの歴史などについて学んだことが、その後の私の人生に大きな影響を与えました。看護師になった私は、「隣にいる人が誰であっても、何色であっても、何語を話していても」同じように良い看護を受ける権利があると考えてきました。そうあるためには、看護を提供する側の体制も整えて行かなければならない。そんな強い思いが今の私の教育・研究につながっています。

アフリカンキッズクラブとの出会い

大学時代の私は、「いつか世界で人々の助けになるような仕事がしたい」と夢見ていました。看護の道に進むことになり、自分を育ててくれた人々、地域、国に少しは恩返しができるかもしれません。次は世界に恩返しができるのだろうか、そう考えていた私に今の家族ができたことにより、さあ、ナイジェリアについて勉強しようと思

うようくなりました。2020年夏、『アフリカ NOW』バックナンバーを注文したことがきっかけとなり、AJF に入会しないかと声をかけていただきました。そして AJF を通じてアフリカンキッズクラブのダンスクラブがあることを知り、すぐに申し込みました。コロナ禍ゆえ直接会うことはできませんが、オンラインでたくさんのアフリカンルーツの友達と会うことができます。ダンス好きの娘は大喜び、毎回のレッスンを心待ちにするようになりました。

一方で、娘の成長に伴って心配事が増えてきた私にとっては、ダンスクラブや「ママ会」などで話ができる機会を得たことは、大変心強いものでした。多くのユースの皆さんにお会いして話をする中で、それぞれが積み上げてこられた経験から、生きる力を教えてもらったと感じています。2021年にはアフリカンキッズクラブ関西の立ち上げに携わらせていただくことになりました。事務局やユースの皆さんに支えられ、活動を開始したところです。

子どもたちと創る未来

母親として学び、考えさせられることはたくさんあります。保育園で子どもたちから「どうしてケリーちゃんは黒いの?」「髪の毛触ってもいい?」と聞かれたり、街中で「ハ



クリスマスに家族とワシントンで過ごす 2019年12月

なすだぐば じゅんこ：1975年京都市左京区に生まれる。15歳でニュージーランドに留学、1998年に立命館大学国際関係学部卒業。2001年に看護師免許を取得。京都第二赤十字病院救命救急センター等を経て2008年より大学教員として勤務。専門は基礎看護学、国際看護学。英語話者として外国出身患者の支援を行っている。夫と娘との3人暮らし。

ロー」と呼びかけられ勝手に写真を撮られたり。周囲から「大きくなったらいじめに気をつけて」と忠告されることもあります。人は違って当たり前であり多様性が大切だ、と言って看護を教えてきたはずなのに、見た目に周囲と異なる自分の娘を必要以上に案じる自分がいることに気づかされる毎日です。

アフリカンキッズクラブ関西では、これまで活動し

てこられた皆さんから知恵をお借りしながら、まずはアフリカンルーツを持つ子どもたちが楽しんで集まれる場を創り上げていきたいと考えています。さらに、関わる大人たちがゆるやかに連帯しながら、成長しあえる場であるとうれしいと思います。私自身も、アフリカンキッズクラブの子どもたちと一緒に未来を考え、学び続けていきたいと願っています。

アフリカンキッズクラブ関西の開始に込めた想い My thoughts on the establishment of African Kids Club Kansai

長谷川 裕大

Hasegawa Yuta

私にはケニア出身の妻との間に5歳の元気な息子がいます。私たちは、日本×ケニアの国際結婚家庭ではありますが、私も妻もミックスルーツではありません。友人知人の経験を見聞したり、書籍等を通じて、ある程度ミックスルーツに関する知識は持っているつもりですが、自身が当事者としての経験はないので、ミックスルーツの子どもたちの立場や心理を真に理解することはなかなか難しいと思っています。

今後、息子が成長するにつれ、社会のさまざまな人たちとのかかわり合いが増えていき、良いこともそうでないことも、いろいろな経験をしていくことになると思います。時には、恐らく相手の「無知」から来るぶしつけな言動に驚き、悲しみ、怒りを感じることもあるかも知れません。自分の中の複数のルーツについて考え、困惑することもあるかも知れません。なかなか変わらない日本社会に、やり場のない何とも表現しづらい複雑な感情を抱くこともあるかも知れません。

そんな時、ごく身近に、自分と似たルーツ、バックグラウンドをもつ友人知人がたくさんいて、思っていることを気軽に共有、相談し合えたらどうだろう。また、ミックスルーツの子どもをもつ家族同士も、思っていること、困っていることを気軽に相談したり、時には、我が子だけでなく、他の家庭の子どもたちの生の声を直接聞ける機会がもてたらどうだろう。

そんなことを考えている時に、アフリカンキッズクラブ

のこのことを知り、アフリカにルーツをもつ子どものママパパと成長したユース世代の皆さんとの交流イベントに参加したことで、上記のような場を作りたいという考えがより強くなりました。アフリカンキッズクラブは、関東、東海での活動をしてきていますが、私たちが住む関西ではまだということだったため、複数の有志のみなさんと一緒にぜひ始めようということになりました。

関西の活動は2021年夏に始まったばかりですので、これから皆さんと一緒にいろいろ考えながら、良い環境を作っていきたいと思っています。まだまだコロナ禍の制約もあり、もどかしいところもありますが、状況を見ながら少しずつ活動範囲を広げていきたいと思っています。

イベントに参加いただけるお子さんやご家族、事務局メンバーとして運営に携わってくださるご家族やユースの皆さん、広く募集しています！



兵庫県丹波市にて家族と

2019年8月

はせがわ ゆうた：1984年東京都町田市に生まれる。2008年フィリピンに留学後、2011年早稲田大学大学院社会科学研究所修士課程修了。商社での海外営業等を経て、2019年よりメーカーにて調達・購買に従事。妻と息子との3人暮らし（来春に第2子誕生予定）。